

### 国家公務員採用総合職試験教養区分

## 専大初の合格

**総合合格者数 全国私大7位**

国家公務員採用総合職試験(大卒程度試験)教養区分に、佐藤友寛さん(経済3)と磯山乃莉子さん(文1)が合格した。本学から教養区分の合格は初めて。

本年度の国家公務員採用総合職試験合格者は、6月に発表の春試験合格27人に加えて合計29人になり、過去最多を更新。本学は私立大学では全国で第7位の合格者数となった。

総合職試験は、毎年春と秋に実施。秋試験の教養区分は、専攻分野にとらわれない、企画立案のための基礎的な能力の検証を重視した試験の区分である。本年度の倍率は9.5倍だった。

合格者2人は1月26日、佐々木重人学長を訪問、祝福を受けた。

**佐藤 友寛さん**  
経済3  
麻衣子ゼミ  
古賀都昭和高

**磯山 乃莉子さん**  
文4  
小林恭二ゼミ  
小森三田高

都合により  
お写真は掲載  
致しません

## ゲートキーパー研修会を初開催



思い詰めた友人とどう向き合うか、ワークシートをもとに話し合う学生たち

悩みや問題を抱えている人に気づき、必要な支援につなぐ「ゲートキーパー」についての研修会が12月21日、生田キャンパスで、神奈川県、川崎市、学生相談室の共催で初めて開催された。学生と教職員計53人が参加し、身近な人のSOSに気づき、寄り添うために何が必要かを学んだ。

厚生労働省によると、ゲートキーパーは「自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人」と位置付けられる。

研修会では、メンタルヘルスおよび自殺対策が専門の小高真美武蔵野大学教授が講師を務めた。小高教授は「ゲートキーパーは特別な人ではない。一人一人が隣にいる

人に関心を寄せ、必要に応じて手を差し伸べよう。状況を作ってあげれば、より生きやすい社会になる」と述べた。

ゲートキーパーの対応として、気づき▽声掛け▽話を聴く▽専門機関などにつなぐ▽見守るという流れを示した。

「助言や提案する前に、まずはしっかり相手の話を聴くことが重要。その際に、勇気を出して話してくれた相手をねぎらい、相手を心配していることを伝えよう」といったポイントを挙げた。

この後、参加者はグループワークを行った。死にたいという相手に対する適切な態度や言葉について、学生たちは真剣な表情で話し合った。参加した人間科学部4年次生は「相談に乗る際に、使った方がいい言葉、避けるべき言葉や態度を学ぶことができた」と感想を述べた。

ネット情報・映像演習基礎

**優秀6作品を表彰**

多摩区・専大の魅力伝えるCMを制作



表彰式では受賞6作品が上映された

川崎市多摩区や専修大学の魅力を伝えるCM映像を制作するネットワーク情報学部2年次の専門科目「映像演習基礎」の優秀作品表彰式が1月18日、生田キャンパスで行われた。今年度は多摩区部門に18作品、専修大学部門に21作品の計39作品が提出された。6作品が優秀作品に選ばれ、川崎市多摩区長最優秀賞は千葉友花里さん、専修大学広報課最優秀賞は平松佑樹人さん、専修大学入学センター最優秀賞は山田真子さんが受賞した。

## ネット情報・プロジェクト最終発表会

### 1年間の研究成果を披露



自作のコンポストで野菜や花を育てた栗芝プロジェクト

ネットワーク情報学部3年次の必修科目「プロジェクト」の最終発表会が12月16日、生田キャンパスで開かれた。プロジェクトは、教員や学生が立案したテーマごとにチームを組み、研究や開発を行うグループワーク型の演習科目。今年度活動した28プロジェクトが、展示や実演などそれぞれに趣向を凝らした方法で、1年間の研究成果を披露した。

安積義弘プロジェクトは、3Dモデルを用いて生田キャンパスの館内配置図や各館のフロアマップを制作し、ウェアラブルとして仕上げた。教室だけでなく、プリンターや自販機などの位置も検索できる。メンバーは「デザインとプログラミングのすり合わせに苦労した。複雑な生田キャンパスで迷う人を少しでも減らせるよう、今後は道案内機能の追加なども検討していきたい」と話した。

「使わなくなったものに新しい価値を見いだそう」をテーマに活動したのは、栗芝正臣プロジェクト。生ごみやコーヒーカスを活用したコンポストと、学外でのワークショップ開催に取り組んだ。最終発表会の会場には、コンポストを使ってメンバーが育てた野菜や花を並べ、多くの来場者の目を引いていた。



安積プロジェクトのキャンパスマップ



VRをテーマに活動した石鎚・富津プロジェクト

## 沖縄県と就職支援協定

本学は1月22日、沖縄県と就職支援に関する協定を結んだ。沖縄県内の企業情報の提供や合同企業説明会の開催などを通じて県内企業への学生・卒業生のUIJターン就職を支援する。

沖縄県庁で締結式が行われ、佐々木重人学長と玉城デニー知事が協定書にサインした。

玉城知事は「沖縄で働いてよかった、働き続けたい」と述べた。

## 就職日より

3年次生の皆さん、就職活動本番に向けての準備はいかがでしょうか。悩みや課題は人それぞれです。キャリア形成支援課の個別相談を活用して、悩みや課題をクリアしていきたいでしょう。これから会社説明会や選考活動が活発化します。スケジュール管理はもちろん、体調管理にも十分注意して就職活動を進めてください。

## 2月13日(火)、14日(水)、20日(火)、21日(水)

(水)に自治体や官公庁等の37機関が集結する「公務員・独立行政法人等業務説明会」(学年不問)をオンラインで開催します。各機関の採用担当が業務内容や機関の魅力、仕事のやりがいなどの情報をお話します。公務員や独立行政法人の業務理解を効果的に深めることができますので、積極的に参加してください。

## 専修人の新しい本

古代アメリカ文明 — マヤ・アステカ・ナスカインカの実像

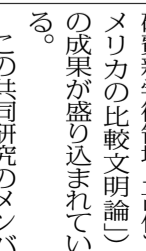
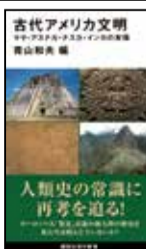
井上幸孝 共著

古代アメリカ大陸には、メソアメリカ(メキシコと中央)とアンデス(南米)という2地域に1次文明が興った。本書はその双方を同時に扱った初の新書である。日本の世界史教育の中で軽視されてきた両文明のうち、前者についてはマヤとアステカ、後者についてはナスカとインカに焦点を当てている。本書には、青山和夫氏

## この共同研究のメンバーであった4人の著者

(マヤ)青山、アステカ)井上、ナスカ)坂井正人氏、インカ)大平秀一氏)がそれぞれの専門分野から最新の知見に基づいて分かりやすく解説し、その実像について論じている。(講談社現代新書・税込み1320円)

共著者(いのうえ・ゆきたか)国際コミュニケーション学部教授。歴史学(メキシコ史)。



公認会計士試験 合格29人に

2023年度公認会計士試験で、新たに卒業生3人の合格が判明した。1月11日現在、卒業生の合格者は18人。在学生11人と合わせて本年度の合格者は29人になった。

合格者は次の皆さん。

望月蒼樹さん(商3)、商)静岡県富士高(市立)▽藤本香織さん(平23経済)福島県磐城高

※このほかに1人合格している

難関突破を祝う 計修会祝賀会

計修会(専修大学公認会計士試験研究会)主催の公認会計士試験合格祝賀会が12月16日、神田キャンパスにて約20人が参加して開かれた。写真。

本年度は計修会から、中澤隼斗さん(商4)、山方裕貴さん(商3)、押澤蓮さん(商3)の計3人が合格した。

当日は、計修会前室長の佐々木重人学長やご指導をいただいたエクステ



公認会計士試験合格祝賀会

ンションセンターの「会計士講座」の講師3人も駆けつけ、合格までの健闘をたたえ

抱負を述べた。(商学部准教授、計修会室長・松本徹)